

平成 24 年 3 月 19 日  
水管理・国土保全局  
水資源部水資源計画課

## 第 6 回世界水フォーラム（フランス・マルセイユ） 奥田 建 国土交通副大臣参加による閣僚級会議等について

### 1. 世界水フォーラムと閣僚級会議等について

世界の重大な水問題を討議するため開催される、水に関する世界最大級の国際会議（本年 6 月にブラジル・リオデジャネイロで開催される国連持続可能な開発会議（通称：リオ＋20）に向けた重要なステップ）が、12 日～17 日の日程でフランス・マルセイユで開催。

奥田副大臣は、世界水フォーラムを構成する主要な要素である閣僚プロセスに参加し、閣僚級会合、日中韓三カ国閣僚会議等に出席。

### 2. 閣僚級会議

閣僚級会議は、3 月 13 日（火）に 100 を超える国や地域からの閣僚級の参加者、国際機関の代表等が参加。

午前中にテーマ別円卓会合、午後は全体会合を実施。

#### （1）円卓会合

奥田副大臣は「水関連災害」に関するテーマについて 11 カ国、3 つの国際機関等から閣僚級、代表者の参加者からなる円卓会合の議長を担当。

会議では、議長挨拶において、東日本大震災にあたって各国、各機関から寄せられた支援に関する謝意を述べた後、水関連災害による犠牲者が 10 年間に約 47 万人に上っている現状や、グローバル化する経済のなかで災害被害の影響が 1 国にとどまらない現状などを発表。

発表と議論では、8 つの発表と、これに関する各国からの意見交換を実施。東日本大震災等への対応やタイの洪水に対する国際緊急援助隊の派遣を踏まえた防災パッケージの展開の重要性についての奥田副大臣の発表を含め、約 4 時間にわたる活発な議論の結果は、午後の全体会合の場で奥田副大臣から報告することが参加国で合意。



写真 1 円卓会合の様子

## (2) 全体会合

13日(火)午後の全体会合では、12のテーマ議長国から午前中の議論の報告が行われ、奥田副大臣から「水関連災害」について円卓会合での議論について報告。

奥田副大臣からは、「予防や事前準備を強化することの重要性」「国際的・地域的な協力が必要であり、さまざまな技術をパッケージとして提供すること」など、円卓会合での議論を紹介。

全体会合では、円卓会議で議論された「事前対策（予防）が重要であること」を含む閣僚宣言が取りまとめられた。



写真2 登壇し、報告する奥田副大臣

## 3. 日中韓三カ国水担当閣僚会議及び署名式

平成21年(2009年)秋の三カ国首脳による協力合意に基づき、奥田国土交通副大臣、チェン・レイ中国水利部大臣、ハン・マンヘ韓国国土海洋部副大臣により、三カ国の協力を一層強化する覚書の署名を実施。

水関連災害や水資源に関する気候変動による適応および総合的な河川・水資源管理に関する技術、情報、経験の共有など、今後の三カ国の閣僚級による定期的な会議においてフォローアップしていくことを確認。



写真3 奥田副大臣、チェン大臣、ハン副大臣

## 4. 日米二カ国会談

奥田副大臣とアメリカ合衆国のジョー・エレン・ダーシー陸軍次官補との間で、災害リスク低減への取り組み等への日米の協力に関する会談が行われ、会談では、奥田副大臣から東日本大震災からの教訓として、初動を迅速にするための事前対応の重要性、想定外という言葉は災害対策に携わる者は使うべきでないこと等を発言。

これに対してダーシー次官補は防災対策に慣れはなく、一つ一つの災害に対して学び続けることが重要であると発言。

奥田副大臣、ダーシー次官補の双方から、水関連災害のリスク管理について今後の両国の友好関係がさらに進展することへの期待を述べた。



写真4 歓談するダーシー次官補と奥田副大臣

# 「水と災害ハイレベルパネル」の開催報告

日時： 2012年3月15日（木） 14:00～17:00

場所： フランス・マルセイユ 第6回世界水フォーラム会場 講堂

主催： 水と災害に関する有識者委員会（HLEP/UNSGAB）、 参加者数： 約700名

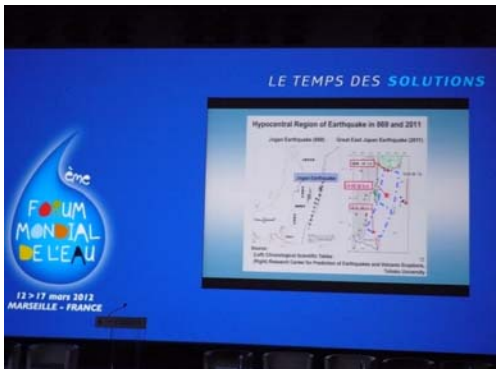
ハイレベルパネルの紹介： フォーション世界水会議会長

開会挨拶： ハン・スンズ韓国元首相（HLEP 創設議長）

- ・世界における最近の大規模水災害の経験からの教訓の共有に関する意義
- ・今年7月にニューヨークにおいて開催される予定の第66回国連総会「水と災害に関するテーマ別会合」について関係各国・機関の参加促進



ハン・スンズ韓国元首相



皇太子殿下のビデオメッセージの放映

皇太子殿下からのビデオ・メッセージ：

「水と災害～津波の歴史から学ぶ～」

- ・東日本大震災の実情の紹介、歴史的な文献に見られる地震・津波災害の教訓分析
- ・メッセージ（抜粋）「水と災害は今や、世界の持続可能な発展のため国際社会が正面から議論すべき主要課題の一つです。皆さんと共に、私も災害の経験と教訓が世界に共有され、活用されるよう努力を続けていきたいと思います。」

パネル・ディスカッション： （廣木 ICHARM 国際水防災研究監による進行）

意見交換内容・地域の水災害対策行動を推進するための国レベル・国際レベルの行動（主な意見）

- ムタガンバ ウガンダ水環境大臣・・・水災害に関する政府の役割の重要性
- ミリベル 飢餓撲滅行動事務局長（NGO）・・・政府のリーダーシップの必要性
- 佐藤技監・・・地域条件に応じてハード・ソフトを組み合わせることの重要性
  - ・日本の災害管理のシステム・ノウハウを「防災パッケージ」として提供する用意
- ゲオルギエヴァ EU 委員・・・災害に係る人道支援額の少なくとも 10%を今後の災害の予防に振り向ける行動の推進



パネルディスカッションで発言する佐藤技監

閉会挨拶： ブリセーニョ国際災害削減会議議長

- ・成果を2015年に行われる兵庫行動計画の見直しに本格的に繋げるべき

<問い合わせ先>

国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源計画課 大槻・田畑

電話 03-5253-8111（内線 31251、31233）

03-5253-8389